

# 弁当携え高齢者訪問

総社で県立大2グループ協働

## 食生活、日常の悩み聞く

管理栄養士や社会福祉士を目指す県立大の学生グループが15日、総社市中心部で地域の

高齢者を支援する活動するのに合わせ、食生活を行った。手作りの弁当や日常の悩みごとなどを携えて自宅を訪問などを聞いて回った。



参加したのは、市内「AMAGO」のメンバーの高齢者を対象に個々が弁当を作り、それぞれの好みや健康状態を「はっぴすたんど」に応じた「カスタマイズ弁当」を1食505世帯に届けて回った。

「TAMAGO」と、初めて注文した同市高齢化率が高い同市山田地区で1人暮らしの高齢者の困り事を聞く活動をしている「はっぴすたんど」の2グループ13人。

両グループが協働するのは今回が初めて。同市中央のまちづくり拠点「FLCB」でT

届けた弁当を前に京野さん

の学生

以前からお互いの活動に興味があったという両グループ。京野さん方を訪れた「はっぴすたんど」の保健福祉学部3年森中涼花さん(21)は「食や健康を切り口にすることで、

「普段困っていることはありますか？」などと30分程度話を聞いた。

(久万真毅)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。